

# りそな外為レポート

## りそな WEEKLY COLUMN

### りそな外為レポート

がっかりさせない期待に応えて 素敵で楽しい  
いつもの俺らを捨てるよ (P2)

りそな銀行 市場トレーディング室  
グループリーダー 井口 慶一

今週のドル円予想レンジ **106.50 ~ 108.50**

### りそなWEEKLY COLUMN

世界で急拡大「フェイク・ミート」市場 (P3)

埼玉りそな銀行 資金証券部  
大下 久実

- 健康志向や持続可能性への意識の高まりを背景に、植物由来の素材で作った"フェイク・ミート"市場が欧米で急拡大
- 昨年米ナスダックに上場した"ビヨンド・ミート"社の株価は堅調推移
- 日本でも今後、市場拡大が期待できるのではないか

2020/7/6

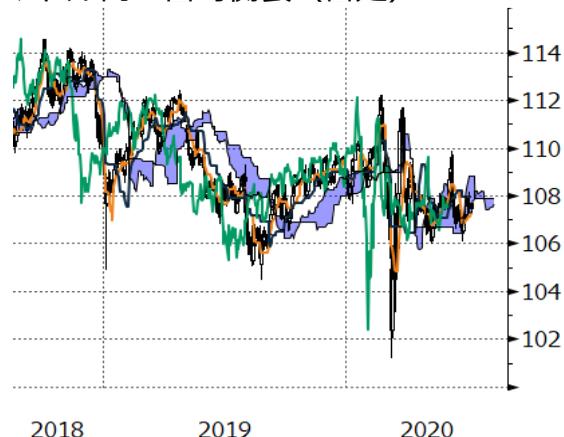
# りそな外為レポート

がっかりさせない期待に応えて 素敵で楽しい  
いつもの俺らを捨てるよ

今週のドル円予想レンジ **106.50 ~ 108.50**

(りそな銀行市場トレーディング室予想 発行当日の10時時点)

## ◆ドル円一目均衡表（日足）



## ◆為替相場のすすめ

2020年も半分が経過し、「よっしゃ後半もいっちょやったるかい！」と腕まくりしていた外為関係者も多いはずだが、残念ながらドル円は大きく動く気配がなかなか感じられない。先週は久しぶりに108円台に乗せる場面が見られたが非常に短命に終わってしまい、結局いつもの107円台に戻り腕の見せ所の極めて少ない“がっかり”な展開になってしまっている。

ワクチン開発期待や改善傾向の経済指標などポジティブな材料もあるが、香港を巡る米中関係悪化懸念、世界的な新型コロナ感染拡大などのネガティブな材料も多く、楽観と悲観の板挟みによりドル円は身動きが取りにくい。この状況を打破するカタリストは、ワクチンの流通、追加景気刺激策などの材料が挙げられるが、マーケットが動意付く材料が顕在化しなければ、11月の大統領選まで待つことになるかもしれない。ドル円の主戦場である日本でも東京を中心に新型コロナの感染者が再拡大して不安が広がっているが、感染拡大を食い止め力強い株高トレンドを見たいと切に願う。

(グループリーダー 井口慶一)

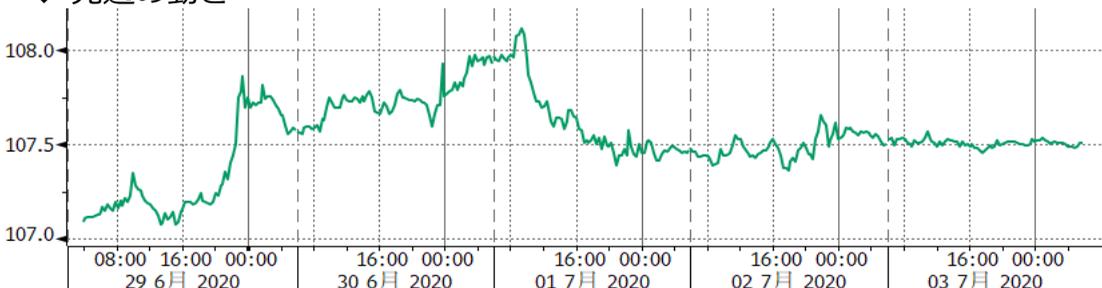
## ◆今週の日程

|                      |                   |
|----------------------|-------------------|
| 6日(月) 米 6月ISM非製造業    | 8日(水) 米 10年国債入札   |
| 7日(火) 日 5月家計調査       | 9日(木) 日 5月機械受注    |
| 7日(火) 米 3年国債入札       | 9日(木) 中 6月CPI・PPI |
| 7日(火) 豪 豪中銀会合        | 9日(木) 米 30年国債入札   |
| 8日(水) 日 6月景気ウォッチャー調査 | 10日(金) 米 6月PPI    |

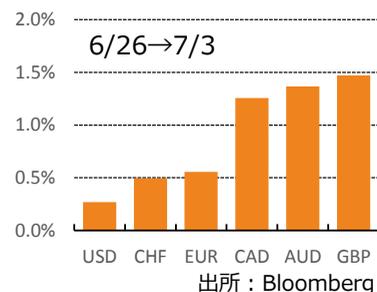
## ◆今週の予想（ドル高 強い ↑ 普通 ↑ ドル安 強い ↓ 普通 ↓） NY引け値 7月3日(金) 107.51円 VS 7月10日(金)

| 東京 |    |   |    |    |    |    |    |    | 大阪 |    |    | 埼玉 |    |    |    |    |
|----|----|---|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 井口 | 中根 | 湊 | 小新 | 鳥井 | 田中 | 浦本 | 中里 | 伊藤 | 鈴木 | 武富 | 野瀬 | 小林 | 津田 | 石井 | 伊藤 | 佐藤 |
| ↑  | ↓  | ↓ | ↓  | ↑  | ↑  | ↑  | ↑  | ↓  | ↓  | ↑  | ↓  | ↓  | ↑  | ↑  | ↑  | ↓  |

## ◆先週の動き



## 主要通貨対円パフォーマンス



◎注意事項  
お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願いいたします。

2020/7/6

# りそな WEEKLY COLUMN

## 世界で急拡大「フェイク・ミート」市場

- 健康志向や持続可能性への意識の高まりを背景に、植物由来の素材で作った「フェイク・ミート」市場が欧米で急拡大
- 昨年米ナスダックに上場した「ビヨンド・ミート」社の株価は堅調推移
- 日本でも今後、市場拡大が期待できるのではないか

埼玉りそな銀行 資金証券部  
大下 久実

肉のようで、肉ではない～フェイク・ミート～

「フェイク・ミート」という言葉を聞いたことがありますか？その名の通り、既存の動物肉とは異なる素材で作られた肉のことを指します。原材料には豆類やナッツ類といった植物性の素材が使用されています。このフェイク・ミート、近年欧米では市場が急拡大し、大きなビジネスとなっています。

高まる健康志向

市場拡大の背景には、大きく二つの要因があります。一つは、世界的な健康志向の高まりです。元来、フェイク・ミートは食物アレルギーへの対応やベジタリアン・ヴィーガンを対象としたニッチな市場でしたが、近年、自身の健康の観点から時と場合によって菜食を実践する人々が増加傾向にあると言われていています。フェイク・ミートは緑豆などの豆類や米たんぱく質等を原料にして作られており、植物ベースとはいえ肉並みのたんぱく質を含んでいるので栄養価も高くなっています。またアレルギーの原因とされている遺伝子組み換え作物やグルテン等が含まれておらず、通常肉よりも心血管疾患のリスクを高める飽和脂肪酸が少ないとも言われています。

持続可能性への意識

もう一つの要因は、ESG(環境・社会・企業統治)やSDGs(持続可能な開発目標)といった社会課題解決への消費者の意識の高まりです。最近メディアでも「サステナブルな暮らし」や「エシカル消費」という言葉がよく取り上げられるようになりました。人間は生きていく上で必ず消費活動を行います。活動の基準に変化が起きているようです。私たちが消費しているモノやサービスの生産背景を知り、環境負荷の低いものを買ったり、生産者の搾取を助長しないものを買ったりすることで、社会問題の解決に貢献できます。こうした潮流が、消費者の「食」の選択にも影響を与えています。

畜産業は、飼料用穀物や土地、水資源の使用料、二酸化炭素排出量などにおいて、地球環境への負荷が指摘されています。特に、世界で人為的に排出される二酸化炭素の約15%は畜産業から排出され、中でも牛肉の生産による排出量が最も大きいとされています。また、牛の排泄物などから出るメタンガスは二酸化炭素の25倍も温暖化への影響があるとされています。フェイク・ミートにはそうした弊害がなく、環境負荷の軽い食品として注目されているのです。フェイク・ミートの製造は一般的な畜産と比較して、土地利用を93%、水資源を99%、二酸化炭素排出量を90%、エネルギー使用量を46%



2020/7/6

# りそな WEEKLY COLUMN

## 関連銘柄の株価は堅調推移

削減できるとの試算もあるそうです。また、フェイク・ミートの普及に伴う効果は、環境問題だけにとどまらないとの見方もあります。国連の予測では、世界の人口は2050年に2015年対比3割多い97億人に達し、畜産物の需要は同期間に6~7割増える見込みです。人口増で食料が足りなくなるとの懸念も出る中、フェイク・ミート市場が拡大することで食料難を解決するという効果を期待する声もあるのです。

2019年には、フェイク・ミートを開発しているアメリカの新興食品メーカー“ビヨンド・ミート”社がニューヨークのナスダックに上場しました。この会社は、マイクロソフト創業者のビル・ゲイツ氏や俳優のレオナルド・ディカプリオ氏、マクドナルド元CEOのドン・トンプソン氏といった著名人が上場前に出資したことで知られています。

株価は上場初日に売出し価格の2.6倍の終値をつけ、3か月足らずで10倍近くまで値を上げたことで一躍有名になりました。新型コロナウイルスの影響で株式市場が大荒れとなった今年2月から3月には一時的に大幅安となったものの、現在（7/2時点）は下落前を上回る株価となっています。

“ビヨンド・ミート”社の売上は、調達資金を活用した生産体制の強化・生産量の増加、単価の低減に成功したこと等により、上場前と比較して大きく伸びています。2019年の売上高は前年比3.4倍の2億9789万ドルとなりました。また、今年1~3月期の売上高も、前年同期比の2.4倍に増えています。足元の売上高増加の要因の一つとして、新型コロナウイルスの感染拡大により、食肉処理場や加工工場が相次いで閉鎖し肉の供給が滞っていたのに対して、フェイク・ミートは生産を自動化しやすく人手に頼る部分が少ないという利点によって、安定的な供給が可能だったことも挙げられています。

外食大手のマクドナルドやKFC、スターバックスなどとの提携による販路拡大、新商品投入への期待など、更なる成長要因が見受けられることが、“ビヨンド・ミート”社株価の堅調推移に繋がっています。また、世界的に持続可能性への意識が高まり、ESG投資に大きな資金が集まる中で、“ビヨンド・ミート”社はESG投資家の支持を得やすかったという背景も見過ごせないでしょう。

## 日本での展開

日本では、欧米と違って宗教を理由とした菜食者の層が厚くないこともあり、フェイク・ミート市場の形成が遅れています。2019年の夏には、“ビヨンド・ミート”社に出資していた日本の商社が、日本での進出計画を取りやめたことが報じられました。しかし、健康志向や持続可能性の意識は日本人の間でも今後より一層高まっていくことが予想されていることから、大きな可能性を秘めた市場といえるのではないでしょ

2020/7/6

# りそな WEEKLY COLUMN

## 日本での展開

うか。今後の市場動向によっては、“ビヨンド・ミート”社の日本進出計画が再開される可能性もあるでしょう。また、今年に入ってから、複数の日本の大手食品メーカーが植物由来の加工肉の発売を開始したり、ハンバーガーチェーン大手が原材料に動物性食材を使わず、野菜と穀物を主原料に使った「グリーンバーガー」を販売したりするなど、国内企業でも徐々に動きが出始めています。

## 選択肢の一つとして

一方で、フェイク・ミートの広まりには、健康や持続可能性以外にも必要な要素があると考えています。私自身、妊娠中に健康上の理由から軽めの食事制限を行ったことがあり、代替食を食べていた時期があります。白米にこんにやく由来の疑似白米やスーパーフードの「キヌア」を混ぜたり、ブランを原料とするパンを食べたり…。食事制限を開始した直後は「本物みたい、すごい！」と感動し、喜んで食べていましたが、やはり本物とは味や食感が若干違うこともあり、続けていると段々辛くなっていくこともありました。食事制限が解除され、何も気にせずに好きなものを食べることが出来た時の感動は今でも忘れられません。

そう考えると、フェイク・ミートがより広く普及するには、味や食感のレベルを本物にいかに近づけられるかが重要だと感じています。また、一過性のブームではなく日々の食卓に定着するためには、程よい値段で購入できることも重要でしょう。

ヘルシーで環境にも優しいフェイク・ミート。欧米での市場拡大を背景に、企業の研究開発と価格競争が続いていけば、日本でも食材の一つとして当たり前に使われる日も、そう遠くないのかもしれないですね。

### 参考文献等

- ・『経済がわかる 論点50 2020』 みずほ総合研究所
- ・国連食糧農業機関 (FAO) HP

<http://www.fao.org/news/story/en/item/197623/icode/>

- ・日経新聞記事

『米で植物肉普及、ESG追い風 ビヨンド・ミート昨年売上高3.4倍 環境対応で企業が調達』 (2020/2/29)

『<米国>ビヨンド・ミートが急伸 スタバが中国で代替肉製品を販売』 (2020/4/21)

『〔FT〕米で植物肉需要が急増 食肉工場の閉鎖で』 (2020/4/28)

『米 「食卓」揺らす新型コロナ 肉は販売制限、卵は7割高』 (2020/5/8)

『エクソン対ESGマネー コロナ後占う株主総会 (一目均衡)』 (2020/5/25)

